

第7回 帯広市都市計画マスタープラン検討専門部会 会議録 要旨

日時：令和元年8月6日（火）9：30～11：45

場所：旧帯広信用金庫電信通支店

■会議次第

- 1 開会
- 2 都市建設部長あいさつ
- 3 専門部会長あいさつ
- 4 議事
 - （1）都市計画マスタープランの全体構成について
 - （2）将来都市構造の検討案について
 - （3）実現に向けて骨子案について
 - （4）市民意見交換会の開催について
 - （5）団体との意見交換について
- 5 閉会

■出席者

○委員：小林英嗣（部会長）、河西智子、窪田さと子、関口真弘、長沢敏彦（全5名出席）

○事務局：和田亮一、山名克之、大橋貴、池田裕雅、奥秋努、
涌井一憲、中鉢和貴、佐藤健二、阿部諒平

（敬称略）

■傍聴者等

○傍聴者：6名

○報道：2名

■委員の意見等

（1）都市計画マスタープランの全体構成について

・人の歩く範囲は小学校区や買い物圏ぐらゐの範囲であり、都市全体を日常的に歩くわけではない。どんな街にするのか、そのぐらゐのスケールで丁寧に考えてはどうか。そうすることによって、都市と家や自分の周りについて考えることにつながるのではないか。

・帯広は都市を大きく、豊かな緑で囲んで、その中にいくつかの大事な軸をつくってきた。今後10年、20年はそれらをベースにしながら、人間でいう毛細血管のようなところをより充実させていくべきである。

・もっと小さな地区や、拠点がどこにあるのかを知恵を出して、住民を含め議論していくべきである。

・人体で言えば、押すと体調がよくなる“ツボ”のようなものが、まちにもあるのではないか。まちの“ツボ”を発見して、効果的に取り組みを進めることを意識していくべきである。

・そもそも帯広の“ツボ”はどこにあるのかを考え、委員で共有するべきである。

・道内7空港の民営化などが背景にあるため、鉄道、空港、港湾との連携についての項目は、より詳細な記載が必要となってくるかもしれない。

- ・十勝圏の経営力を高めていくために、空港の果たす役割は何かを考えていくべきである。
- ・MaaS の中に飛行機も含まれるという感覚を持つておくべきである。
- ・バスとそれ以外の公共交通との連携を高めていく必要がある。

（２）将来都市構造の検討案について

- ・基軸以外の小さな軸についてもピックアップして考えていくべきである。小さい動きへの気配りと、行政による大きな動きとのつながりが重要である。
- ・バス路線から考えると、中心部は間違いなく拠点である。郊外部は南はイトーヨーカドー一周辺、西は MEGA ドン・キホーテ周辺が住宅も密集していて、人も集まる場所である。この３つを三角に結び付け、そこに行けば更に色々な場所にいける、ということを目指すべきではないか。
- ・今後、移動の形態は変わっていくべきである。人生 100 年時代になり、もっともって高齢の方が移動しなければならなくなる。いわゆる door to door で、自宅から目的地に直接アクセスできるのが理想である。
- ・今の大きなバスではカバーできない範囲も出てくるかもしれない。拠点までタクシーやその他の移動手段を使用し、その先はバスに乗り換えることができるのが良い。
- ・様々な交通機関との連携が重要になってくる。
- ・帯広でどこにチャンスがあるかが、上手く共有されていない。
- ・個々で保有している情報はたくさんあるだろう。それを集積するプラットフォームが必要。
- ・必ずしも市役所が情報を一元集約する必要はない。例えば町内会単位など、そこにアクセスすればわかるというシステムがいいのではないかな。
- ・常にまちの情報についてアクセスできる場所が必要である。
- ・行政施設は管理規則などによって、市民にとって使いにくい面もある。指定管理者や NPO などと連携することによって使いやすくすることが出来るのではないかな。
- ・「まち保育」という取り組みを行っている自治体がある。保育園や家庭だけではなく、地域全体で子供たちを保育しようという取り組みである。
- ・買い物はネットでしたり、外出の目的地が決まっておき、ピンポイントでいくので、街中をぶらぶらしないのではないかな。
- ・西 2 条通はカフェなどもあり、若者の活気がある場所である。
- ・緑ヶ丘公園は今よりもさらに重要な役割を持てるポテンシャルがあるのではないかな。
- ・グリーンパークは都市公園ではないので、やれることの幅がある。その実力を発揮できることは何かを、考えていく必要がある。
- ・公園大通はまち歩きの際の魅力的なスポットだが、車社会の現状や、舗装状況、沿道のお店の種類などから若者は集まってこないのかもしれない。気軽に歩けるような仕組みが必要。例えば近くに駐車スペースを設けて、散歩コースを設定するなど。
- ・女性が楽しみに歩けるようなことが、大事な要素である。

・緑ヶ丘公園やとてつぽ通は散歩が出来るような街路が整備されているが、まだ十分に活用されていないのではないかな。

・とてつぽ通や公園大通の先には緑ヶ丘公園があるが、そこから先が特にないように感じる。

・周回できないと行きと帰りで同じ景色になってつまらないのではないかな。

・テレビ番組のリスの特集や、スマホアプリの影響で緑ヶ丘公園に来る人がすごく増えている。

・公園、緑地を管理するだけではなく、いかに活用していくか。そして“ツボ”としていくかを考えていくべきである。

・地図をみると、改めて公園がたくさんあるなど感じる。大人でも楽しめるような工夫があるといい。何もないと大人は公園になかなか行かない。

・今までは、公園や道路をつくることを行政はやってきた。それを使うことによって、市民の喜びとなり、行政の財源にもなり得る。

・住宅街の中にある公園は近隣住民の方が利用している。普段いない人が利用すると、不審に思われているかもしれないとなり、使いにくい。

・カフェなどが公園内にあれば、人が集まり入りやすくなるかもしれない。

・本日の会議は電信通で開催しているが、例えばこの商店街には、観光客も多く訪れる高橋まんじゅう屋があるが、店の近くに公園があると観光客なども利用するのではないかな。そういったところから公園に馴染んでいくことが期待できる。

・憩いの場としての公園のイメージが薄い。いくつか公園をピックアップして、そのイメージを改善していく必要がある。まちづくりに公園は重要である。

・東京の青山に行った際に、緑豊かな公園内で仕事をしていたり、コーヒーを飲んでくつろいでいたり、すごく良い雰囲気を感じた。日陰をつくったりなど、使いやすさを向上させるべきでないかな。無人のところへは女性は行きにくい。

・大阪では公園が2千箇所ぐらいあるが、その全部でサウンディング調査を行った。公園は市民の財産であり、活用していかなければならない。

・学生の中にはシェアオフィスやカーシェアなどの事業をやりたいという声もある。

・帯広の街中を回るツアーなど、まちを知るきっかけづくりは大切である。

・今の高校生はどこで遊ぶのか。カラオケなど室内にいて、あまり外を歩かないのかもしれない。

・昔は電信通周辺にたくさん学校があったが、現在は郊外に点在している。高校生がまちのどこで遊んでいるのか考える必要がある。

・例えば、高校生に「あなたはまちが要りますか」と質問してみるのも面白いかもしれない。

・使う人、使いたい人がいて初めてまちになる。

・渋谷区では、まちの著名人と協力して高校生とまちをつなぐ取り組みを行っている。

・帯広の若い人のニーズに合わせたまちづくりをしていく必要がある。

- ・大学生なども関わっているが、今後、こうしたつながりが都市計画マスタープラン策定の“ツボ”づくりの取り組みなどに参加する動機になればいいなと期待している。
- ・畜産大学の学生は道外出身者が約6割である。そのため帯広にどのようなチャンスがあるかあまりわかっていない。
- ・学生や大学の研究室が月に1回でも街中などで自治体と意見交換をすれば、あっと驚くようなアイデアが出てくるかもしれない。

（３）実現に向けての骨子案について

- ・記載内容はきちんと書かれている。あとは現場とどうすり合わせをするかが重要である。
- ・市民と一言で書いてあるが、どんなグループ、世代などを考えているのかを整理しておく必要がある。
- ・帯広はいわゆる「尖がった人材」が各方面で活躍をしている。そういう人たちにまちづくりに関わってもらうべきである。
- ・十勝にはヨーロッパ的な風土があり、例えば、帯広圏はフランスのような、自由活発にのびのびとやっているイメージがある。
- ・自由な想いを持っている人が自由にやれる場所はどこなのか、みんなで共有するのが帯広らしい都市計画マスタープランなのではないか。
- ・誰がどの程度関与するのがわかりにくい部分がある。事業者や NPO に任せる部分や、行政がコントロールしなければならない部分を、明確に記載しておくべきである。
- ・自由度の範囲がわからないと、行動しにくいのではないか。
- ・行政投資を伴うときは慎重にならざるをえない。例えば、1～2年間の社会実験をやって、上手くいけば長期的な投資を行うようにすれば、リスクが少ないのではないか。
- ・行政にはまちづくりの担い手を見定める力が必要である。
- ・やりたいことのアイデアがあっても、ハードの面から難しい場合がある。
- ・まちづくりに関する提案などの評価によって、補助金や助成金があれば、まちを動かしていくモチベーションになるのではないか。
- ・市民、事業者、NPO の役割の記載について、義務的に感じる表現は避けるべきである。

（４）市民意見交換会の開催について

- ・進行は事務局が行うとのことだが、硬くなりすぎない工夫をするべきである。
- ・ケーブルテレビなどに報道してもらおうといいのではないか。
- ・SDGs のカードゲームのように、ハード面だけではなく、ソフト面、生き方、社会の作り方などを含めてやるのがまちづくりである、ということを理解してもらえるように。

(5) 団体との意見交換について

・ 公民連携で進めていく中で、自分たちでも出来そうだなと感じてもらうことが大切である。

■その他

・ 次回は、10月7日に第3回の専門部会を開催する。

以上